様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：１３５０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2017
課題番号：２６８７０２３６

研究課題名（和文）在宅精神障害者の家族の介護への有意味感を高める家族支援モデルの開発

研究課題名（英文）Development of a family support model to raise a sense of significance for care of family caregivers of at home mentally disabled

研究代表者
坂井　郁恵（SAKAI, Ikue）

山梨大学・大学院総合研究部・助教

研究者番号：１０４０４８１５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は在宅精神障害者の家族介護者が持つSense of Coherence（SOC）の下位感覚／有意味感に着目し，家族介護者が持つ有意味感の実態と看護支援者の家族介護者に対する支援の現状を明らかにし，家族介護者の有意味感獲得へのアプローチ方法を検討することを目的に面接調査を実施した.
調査の結果，家族介護者の介護力が低下している中，家族は孤軍奮闘しており，家族支援の必要性を訴える看護支援者は多かった．家族介護者にとって患者の介護はつらさや大変さが強く，介護に対して有意味感を実感している者はいなかった．家族と看護支援者の双方の認識として，家族に介護の意義を感じさせるものは、患者の回復であった.

研究成果の概要（英文）：This study focused on the sense of meaningfulness within Sense of Coherence of family caregivers of home mentally disabled people.In this study, we interviewed family caregivers and visiting nurses / public health nurses (nurses).The purpose of this research is to clarify the actual condition of sense of sense of family caregivers and the current state of support of nurses to family caregivers and to consider ways in which family caregivers can obtain sense of meaningfulness.
As a result of the investigation, families have great influence on patients, and many nurses appealed for the necessity of family support.
Family caregivers felt harder or harder to care for patients than to feel significance and value.
Family caregivers did not have a sense of meaningfulness for the nursing care they had done.From the remarks of both the family member and the nurse, it was thought that meaningfulness can be felt for nursing care if the family caregiver can feel the recovery of the patient.

研究分野：精神看護学

キーワード：家族介護者　在宅精神障害者　Sense of Coherence　有意味感　精神看護　家族看護

１．研究開始当初の背景

地域で暮らす精神障害者の家族との同居者は 7 割以上を占めており[1)]，在宅精神障害者のケアは家族の手に委ねられている現状がある．しかし，家族介護者は，長期にわたる介護の中で，強い不安や緊張，悲嘆，挫折感等のストレスを体験し，家族が抱える心理的ストレスは深刻である[2)]．家族介護者自身の健康を維持することは重要であり，闘病中の者が家族内に存在する場合，その家族の生活の質が保障され，且つ家族が介護を価値ある行為と認識した上で長期ケアが継続できるような方法を検討することが求められる[3)]．

そこで本研究では Sense of Coherence（以下 SOC）概念に着眼した．SOC は，ストレスに上手く対処し，健康を守り，更にそれを成長・健康増進の機会や糧に変え，明るく前向きに生きていくことを可能とする力を意味し，3 つの下位感覚，「把握可能感」，「処理可能性」，「有意味感」からなる．

有意味感は，ストレスは自分にとってマイナスではなく，むしろ有意味なものとして捉える動機づけの感覚[4)] と言われ，下位感覚の中で最も重要とされている[5)]．

有意味感の向上は，SOC や QOL の向上につながるが，自分の経験を価値あるものと肯定的に捉えるためには他者の存在や他者からの評価が重要である．在宅精神障害者の家族介護者に関わる看護師や保健師が，家族介護者を支える他者となり，介護経験が良質な苦労になるような関わりをすることは，家族介護者の SOC や QOL の強化につながると考えた．

精神障害者が地域社会の中でより良質な生活が送ることができるよう支援するには，家族支援を積極的に行っていかなければならない。そして，家族自身が良質な生活を送ることができるよう，家族介護者自身の内にある力を向上することが大切であると考えた．

２．研究の目的

本研究は，以下 3 点を明らかにすることを目的とした．

（1）在宅精神障害者の家族介護者に対し，介護に対する有意味感の有無や，有意味感の形成や強化に影響を与えたと考えられる体験，支援者から受けた支援の具体的な内容を，面接調査にて明らかにする．

（2）地域で家族介護者に関わる看護支援提供者（看護師・保健師）に面接調査を実施し，家族介護者への支援の現状や，訪問時に心がけている点，さらに，家族介護者に対する認識（家族介護者の存在が在宅精神障害者に与える影響，在宅精神障害者にとっての存在等）や家族介護者への支援の必要性をどのように捉えているかを明らかにする．

（3）地域家族支援を受ける側，行う側双方への面接調査から，双方の支援に関する見解と評価を照らし合わせ，現状での地域家族支援の現状や課題を把握する．そして，家族介護者の介護に対する有意味感を形成・強化するために有効と考えられる支援方法を検討する．

３．研究の方法

（1）研究方法

本研究は，地域で暮らす精神障害者の家族介護者および，精神障害者へ訪問によって看護支援を提供している訪問看護師と市町村保健師に個別面接調査を実施した．

（2）面接ガイドの内容

①家族介護者

介護に対する認識，介護に対する有意味感の有無，有意味感の形成や強化に影響を与えたと考えられる体験，支援者から受けた支援の具体的な内容，訪問看護・訪問支援に期待すること，など．

②看護支援提供者

家族介護者への支援の現状（訪問時に心がけている点，支援を行う上で感じる困難や負

担等），家族介護者に対する認識（家族介護者の存在が在宅精神障害者に与える影響，在宅精神障害者にとっての存在等），家族介護者への支援の必要性をどのように捉えているか，家族介護者の介護に対する有意味感を強めるためにはどのような支援が必要と考えられるか，家族介護者に期待することや自らの課題，など．

（3）データの分析方法

面接で得た質的データは，表情や口調の変化といった非言語的表現による情報を加味し，内容分析を行った．

逐語録の内容と質問項目を照らし合わせながら，逐語録から家族介護者の「有意味感」や，実際の支援，看護支援者たちの認識等を表している部分を，意味のあるまとまりで各々抜き出し，それらのデータを繰り返し読み，そのデータの示す意味を解釈して，できる限り対象者の言葉を使用した簡潔な表現にまとめた（コード化）．各々のコードごとに，コード間における意味の類似点と相違点について比較し，分類を行い，項目ごとに類別されてできた複数のコードの集まりに対し，その集まりがもつ意味の特性を表すにふさわしい名前をつけた（サブカテゴリの抽出）．さらに，項目ごとにサブカテゴリ間での類似点と相違点について比較を行い分類することで抽象度をあげ，サブカテゴリの集まりをその内容や性質を表す言葉で命名しカテゴリ化した．

なお，分析結果の真実性を可能な限り高めることを目指し，精神科臨床経験と質的研究の経験をもつ研究協力者を加え分析を遂行した．そして，2 名の研究者で合意が得られるまで分析に対する検討を行い，データの妥当性の確保に努めた．

４．研究成果

本研究では，家族介護者 12 名，看護支援提供者 31 名（訪問看護師 23 名，市町村保健師 8 名）に個別面接を実施した．

個別面接を実施した者の内，対象者の条件を満たしていなかった家族介護者 1 名を除く家族介護者 11 名と看護支援提供者 31 名のデータを分析対象とし，データの分析を行った．

（1）家族介護者

家族介護者から得られたデータを分析した結果，「これまでの出来事や問題と，今の思いや感情」として 20 のサブカテゴリからなる 3 つのカテゴリが，「看護支援提供者からの支援」では 21 のサブカテゴリからなる 3 カテゴリが，そして「家族が望むもの」として 9 サブカテゴリからなる 2 カテゴリが抽出された．

（2）看護支援提供者

看護支援提供者から得られたデータを分析した結果，「支援の現状」では 17 サブカテゴリからなる 4 カテゴリが，「家族介護者に対する認識」として 8 サブカテゴリからなる 3 カテゴリが，そして「家族史厭悪必要への認識」では 19 サブカテゴリからなる 4 カテゴリが抽出された．

分析の結果，看護支援提供者は，家族介護者の介護力が低下とともに，彼らを取り巻く環境の厳しさを認識していた．家族介護者と精神障害者は互いに影響を与え合っていると看護支援提供者は考えており，家族に対する支援の必要性はすべての者が認識していた．しかし，家族の介護に対する価値付けなどへの働きかけを意識して実施している者はいなかった．

家族介護者にとって患者の介護はつらさや大変さが強く，介護に対して有意味感を実感している者はいなかった．そして多くの家族介護者は，自分よりも精神障害者の介護を優先した生活を送っていた．訪問看護や訪問支援は精神障害者のためのものと認識しており，実際に行われている看護支援も患者に対する関わりが主となっており，家族介護者の中で有意味感の獲得につながる援助を認

識していた家族介護者はいなかった.

家族と看護支援者の双方の認識として，家族に介護の意義を感じさせるものは，患者の回復であった.

文献

1）神木菜津美,他 3 名(2015)：精神科新卒看護師が患者対応において感じる困難,日本精神科看護学術集会誌,58(1),342-343.

2）上野栄一,川野雅資(2015):テキストマイニングの基礎と応用‐暗黙知から臨床知への挑戦‐,福井大学医学部研究雑誌,15(1),1-18.

3）藤本幸三（2014）：看護師の経験に関する研究の方法論的考察－記憶についての理論的検討と熟達者の知識との関連から－,東北文化学園大学看護学紀要,3(1),15-24.

4）Rodgers,b.L., & Knafl,K.A.(2000)：Concept Development in Nursing: Foundations,Techniques,and Aplications.Saunders.

5）田嶋長子,山田覚(2014):精神看護師の Clinical Competency と影響因子の構造,日本精神保健看護学会誌,23(1), 9-18.

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　件）

〔学会発表〕（計　　件）

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

坂井　郁恵（ SAKAI Ikue ）

山梨大学・大学院総合研究部・助教

研究者番号：１０４０４８１５

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者

（　　）